

2026 年度

一般選抜入学試験 問題集

国 語



共 栄 大 学

教育学部 / 国際経営学部

I 次の文章を読み、設問に答えよ。

お弁当の時間に、玉子焼きにフォークをつきさして、
「きょう、うちに泊まりにおいでよ」

とみほが言った。みほは、中学に入ってからできた友達で、すごく美人。白くって、細くって、天然パーマの茶色い髪が、肩のところまでくるくると揺れる。何だかお人形っぽい感じ。

「こめん。きょうはダメなんだ。お母さんの誕生日だから」

じゃ、しかたないね、とみほは言った。みほのお弁当はいつもすごくきれい。菜めしの青、にんじんサラダのオレンジ、玉子焼きのきいろ。でもとても小さなお弁当箱だから、私だったらちよつとたりないと思う。

「また夫婦でおでかけなの」

私がきくと、みほは ア うなずいた。

みほの両親は仲がいい。しょっちゅう、二人でかけてゆく。コンサートとか、食事だとか、温泉だとか。だから、私はみほの家に、もう三回も遊びに行った。(そのうち一回は、泊まりだった。)

みほのママとは会ったことがないけれど、写真はいっぱいみた。みほのママはみほにそっくり。白くって、細くって、茶色い髪。 イ、すごく美人。だんなさまに愛される奥さんになるには、どうしても美人じゃなくちゃいけないのだ。

甘いたれのかかったミートボールを一口に入れ、私は、結婚なんてしたくない、と思った。

みほの下駄箱に、またラブレターが入っていた。入学して、たった二カ月で、四人の男の子がみほを好きになった、ということだ。みほは、封筒を裏返して差出し人の名前をたしかめると、興味なさそうに、それをカバンにしまった。

「好きな人、いないの」

校庭を歩きながら、私はきいた。きょうは少しむし暑い。

「いない」

ふうん、とこたえたとき、横をサッカー部員がどやどやと駆けていった。

「やだーっ。土けむり」

私はスカートを両手でばんばんたたいたけれど、みほは ウ 歩きつづけた。

「みほのりはいいいね、好きな人がいて」

そう言ったみほの横顔が、びつくりするほど大人びてきれいだったので、私はどきっとしてしまった。

「よくないよ、別に」

ちつともよくなんかない。好きな人がいたって、むこうはこっちが好きじゃないんだし。

「大学生なんでしょ、その人」

「……わかんない」

次郎くんは、去年の今ごろ大学四年生だったから、普通ならもう大学生じゃない。でも、そのころすでに自信たっぷり、俺、留年だわ、と言っていたから、もしかして、まだ大学生かもしれない。そうだということと思う。

「ふうん」

興味なさそうに、みほは言った。

その夜は、お母さんの誕生日をやった。去年結婚したお姉ちゃんも来た。大きなケーキを持ってきて、自分で焼いたのだと自慢した。私とおばあちゃんがブラウスをプレゼントしたら（私が二千円、おばあちゃんが五千九百円、それぞれだしあって買ったのだ）、お母さんはにこにこして、嬉しそうに、ありがとう、と言った。

今年も、お父さんはなんにもあげなかった。乾杯のときだって、みんな「おめでとー」と言ったのに、お父さんだけ黙ったままだった。でも、それはもうあたりまえのことになっていて、誰も（もちろん私も）不思議には思わない。みほのババなら、こういうとき、きつと何か（お花とかアクセサリーとか、ママにプレゼントするんだらうなと思う。

「島木さん、ほつといいいいの」

お母さんがお姉ちゃんにきいた。島木さんというのはお姉ちゃんのだんなさま。からだが大きくて、ばーつとしていて、めがねをかけている。

「いいの、いいの。どうせ遅いんだし」

自分で焼いたケーキをほおばって、お姉ちゃんは言った。

「お母さん、誕生日に、海外旅行でもねだっちゃえば？」

ふふふ、とお母さんは笑った。

「そうねえ、それもいいわねえ」

お父さんはむつりしたまま、聞こえないふりでお茶をのんでいる。

「ダイヤモンドの指輪とか」

お姉ちゃんがい、お母さんはもう一度、ふふふ、と笑った。

「あたしね、島木さんにピンクハウスのワンピース買ってもらうんだ。今度の誕生日」

お姉ちゃんとお母さんの誕生日は一週間ちがいののだ。

「はいはい、ごちそうさま。でもね、お父さんはこうい**う**人ですからね、プレゼントなんて、最初から期待していませんよ」

お母さんが言い、この話はそれでおしまいになった。でも、こういう人って、一体どういう人のことだろう。

びつくりすることがあったのは、それから少しあとだった。お弁当の時間で、みははいつものおり、きれいなハンカチの上にきれいなお弁当をひろげていた。

「私、二学期から転校するの」

きょう、泊まりにおいでよ、と言うのとおんなじ、普通の口調でみはが言った。

「ええっ」

私はコーヒー牛乳をのみこむと、思わず大きな声をだして言った。

みははおちついていていた。

「両親が離婚するの。私はママと一緒にママの実家に行くから」

どこ、ときいたら、横浜、とみははこたえた。すごくながいまつ毛をしている。

コンサートとか食事とかっていうのは嘘で、ほんとうは裁判所とか、両親の実家とかに行っていたのだ、とみはは言った。

私は、写真の中のみはのママを思い出す。白くて、細くって、茶色い髪、笑っている女の人。

「夫婦なんて、ばかみたい」

みはが言った。うつむいたひょうしに、ぼたっと涙がおちた。

「手紙、書くね」

私は言い、みはは黙っていた。

女は哀しい。美人でも、やっぱり哀しい。

みはは、お弁当箱をハンカチで包み、きゅっとしばった。髪が、肩のところでくるくるって揺れる。

「横浜にも、泊まりに来ていいよ」

小さくて白い、気の強そうな、みはの顔。うん、と私は言った。

横浜の学校でも、みはの下駄箱はきつと手紙で一杯になる。でも、みはは興味なさそうに、それをすつとカバンにしまうだろう。

「その前に期末試験かあ」

みはが、さばさばと言った。

夜、みはのことを考えながら、ぼーっとテレビをみていたら、お父さんが帰ってきて、「みやげだ」と言ってテーブルにメロンをおいた。私は、ちょっとあきれて、

「親ばかあ」

と言った。お父さんは毎年、お姉ちゃんの誕生日には決まってメロンを買ってくる。でも、今年はず、ここにお姉ちゃんはいないのだ。

「島木さんのとこに持ってつたら？」

私が言うと、お母さんが台所から、

「せっかくだからうちでいただきますよう」

と言った。

お風呂に入ってから、お母さんと、おばあちゃんと、私でメロンを食べた。(自分で買ってきたくせに、お父さんは食べなかった。茶の間に一人でずわって、スポーツニュースをみながらビールをのんでいる。)メロンは、とてもよくうれていた。

「かよこを産むときね」

お母さんが言った。

「難産でね、産んだあともしばらく入院していたの。病院は陰気だし、毎日むし暑くて、憂鬱だったわ」

ふうん。私は、きれいな緑色の果肉をスプーンですくって口に入れる。さあっと冷気がひろがる。

「メロンが食べたいって言ったら、お父さんすぐ買ってきてくれてね」

そこまで言ってお母さんは黙った。そして、おばあちゃんとお母さんと顔をみあわせてくくくと笑った。

「なに？」

「お父さんね」

声をひそめて、お母さんが言う。

「これから毎年、死ぬまでメロンを買ってやるから、だから元氣になってくれ、って」

くくくつとおばあちゃんが笑い、お母さんも笑いそうな顔になって、

「真剣な顔で言うのよ。死ぬまで、なんて」

と、もう一度言った。

私は、何とも返事ができなかった。それで毎年毎年、ほんとにメロンを買い続けているのだと思うと、笑うよりおどろいてしまう。

茶の間をみると、お父さんの後ろ姿はいつもどおり エ だった。私は、メロンをせっせとすくいながら、

「夫婦なんて、ばかみたい」

と言ったみはの、お人形みたいな横顔を思い出していた。メロンは、甘くて、つめたくて、しみるみたいな味がした。

(江國香織『メロン』による)

1 空欄 ア、空欄 イ、空欄 ウ のそれぞれに入るものとして最も適当なものを、次の 1～6 のうちよりそれぞれ一つ選べ。なお、三つとも正答の場合のみ得点を与えるものとする。また、同じものを重ねて用いてはならない。(アは 1 に、イは 2 に、ウは 3 に解答)

- 1 驚くほど 2 やっぱり 3 思いのほか
4 平気な顔で 5 はにかむように 6 あっさり

4 傍線部 a「みほのパパなら、こういうとき、きっと何か(お花とかアクセサリーとか)、ママにプレゼントするんだろうな」とあるが、このようにみのりが思ったのはなぜか。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 三回みほの家に遊びに行ったが、その度にママの写真が幸せそうになっていったから。
2 離婚をくい止めるには、プレゼントをするという方法が効果的だと知っているから。
3 自分の父と逆の父親像をみほのパパに描いているので、自分の父の実情からみほのパパの行動を類推したから。
4 自分の父親の家族の一員として理解できない行為に憤りを感じ、憧れであるみほのパパに理想を描いたから。
5 泊まりに行ったとき、みほのパパからプレゼントをあげる話を聞いたことがあるから。

5 傍線部 b「こういう人」とあるが、この表現は父のどのような人柄をあらわしたものか。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 自分の愛する娘にはプレゼントをあげるが、長年連れ添って空気のような存在になっている妻にはプレゼントをあげる必要は無いと考える現実的な人柄。
2 わざと誕生日には関心が無い振りをして、その後にはサプライズのプレゼントをすることに より大きな効果を与えたいと考える策略的な人柄。
3 一度「誕生日にプレゼントはいらない」と考えたら、家族に何を言われようがその考えを変えようとして頑固な人柄。
4 家庭のイベント等に関心を示さず、自分の日々を淡々と生活していくようなあまり家庭的ではない人柄。
5 誕生日が近い妻と姉を同時に祝うことで、一度にイベントが済んでしまうと考える効率主義的な人柄。

6 傍線部 c「島木さんのとこに持っていったら?」とあるが、この時のみのりの心情はどのようなものであるか。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 姉の誕生祝いとしてのメロンであるから、当然、姉に食べさせるべきものである。
2 「みやげ」というのは家族のためのものであるから、当然、姉にも分けるべきである。
3 母の入院の原因は姉の出産であるから、当然、メロンは姉にも食べさせるべきである。
4 島木さんは、ほっとしていて誕生プレゼントを忘れていたから、このメロンを持っ ていって思い出させるべきである。
5 「しみるみたいな味」であるメロンは姉以外の家族は苦手であるため、姉のところに持って いくべきである。

7 空欄 エ に入るものとして最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 無礼講 2 無作為 3 無機質 4 無愛想 5 無頓着

II 次の文章を読み、設問に答えよ。

人は、枠組みから外れたやつがいるのがこわいんだよ。だから、自分がわからないものに出会 うと、おかしいって言って攻撃したり、わかりやすいでために押しこんで、わかった気になっ たり、する。

(村上雅郁「きみの話を聞かせてくれよ」『タルトタタンの作り方』より)

なぜ、引用したもののように「枠組みから外れたやつ」が「こわい」のであろうか。そして、「攻撃」したり「わかりやすいでために押し込んで、わかった気になったり」してしまうのであ ろうか。

人間がある行動を決断する時には、自分の中での論証が行われる。行動は論証の結果であるとい う前提に立つと、前述のような行動の原因は、大きく二つのことが考えられる。

原因を考える前に、まず、論証とはどのようなものであるのかについて考えてみたい。論証とは「前提と呼ばれる命題の集合から、ある命題を結論として導き出す操作のこと」と定義され、その構 造は以下になる。この図で言えば、定義で言う結論とは「主張」のことであり、定義で言う 前提とは「データ」と「理由づけ」の二つのこととなる。

データ (A は B である)

← ↑ 理由づけ (B は C である)

主張 (A は C である)

「データ」を構成する要素である「B」と「A」は包含関係 (A は B に含まれる) であり、「理由づけ」の「C」と「B」も包含関係 (B は C に含まれる) である。そうならば、当然なこととして「主張」の「C」と「A」は包含関係 (A は C に含まれる) になってくることになる。つまり、論証とは、このように要素間の当たり前の関係性について述べているだけのものと言えるのである。

では、このような論証のどの部分に「大きく二つ」の原因が隠れているのであろうか。その一つ目の原因は「理由づけ」の問題からくるものである。

数学などの自然科学分野の論証とは、必然的な「データ」が必然的な「理由づけ」によって必然的な「主張」に至るようなものとなる。その代表的なものとしては以下のような数学分野の合同証明がある。この論証の「理由づけ」は、定理と言われる証明の必要のない自明の真とされたものとなる。よって「データ」が具体的に目の前に示されたら、必然的にこの「主張」に結びついていくことになる。

二つの三角形は二辺とその辺が挟む角が等しい (データ)

← ↑ 二辺とその辺が挟む角が等しい三角形は合同である (理由づけ)

二つの三角形は合同である (主張)

ところが、我々が日常生活を営んでいる社会における論証は、すべての「理由づけ」が定理や公理のように自明の真として存在するものというわけではない。しかも、その「理由づけ」が省略されて語られる場合が多いという性質もある。

社会における論証として世界中で最も古くから知られているのは、「アリストテレスは人間だからいつか死ぬだろう」というものである。これを構造的に示すと以下のようになる。「理由づけ」となる「人間は必ず死ぬものである」ということが省略されて語られていることになる。

アリストテレスは人間である (データ)

← ↑ 人間は必ず死ぬものである (理由づけ) *省略

故にアリストテレスは必ず死ぬだろう (主張)

- 7 -

では、なぜ「理由づけ」は省略されるのであろうか。それは、「理由づけ」がその社会の誰にとっても常識的なこと (皆が共通に知っていること) であるということである。人間は省エネの生き物である。常識的なことはわざわざ言語化などしないのが常となる (これをわざわざ言語化すると「くだい」などと言われてしまう)。社会生活は、そのほとんどの場合が社会的常識の範囲で営まれていることになる。よって、社会生活においての我々の「主張」は、ほとんどが常識的なことが「理由づけ」となっていることになり、「理由づけ」が省略されて語られることが多いくなる。

しかし、社会生活の中で論証を行っている人間には思考の癖とも言われるものがある。人間は「自分にとっての当たり前」は「他者にとっての当たり前」であると思いがちになる生き物なのである (そのような思考の癖がある)。よって、「自分にとっての当たり前」を「他者にとっての当たり前」、つまり「社会的な常識」であると考えて「理由づけ」を省略して語ってしまうこともあるのである。「人間は必ず死ぬものである」は省略されても社会生活は問題なく営まれることになるが、そうではない場合も少なくないということになる。

これが原因の一つ目である。

二つ目の原因は「データ」の問題からくるものである。

論証とは「主張」したい対象に向けて行われるものであり、それはその対象の一つの立場から切り取ったものにすぎないものとなる。社会生活における対象は混沌としたものである (カオスの状態である) と言ってもよい。よって、対象に関わっていくための立場というものは一つではない。それは無数にあることになる。

以下に「社会科見学」というタイトルの児童作文を示す。この作文の内容を対象として、複数の立場に立つて考えてみたい。

「社会科見学」

五月二十五日に江の島・鎌倉に社会科見学に行った。

往復の電車は、一両が●●小学校専用になったので、他の学校に気を使うことなくみんなで自由に遊びながら過ごせた。みんなでトラムをしたり、お菓子を交換したり、占いのゲームをやったりした。普段なかなか話せない人とも仲よくできた。

鎌倉では班別行動だった。私の班は北鎌倉で降りて、円覚寺、建長寺、鶴岡八幡宮の順に歩いた。円覚寺では国宝の大鐘を見た。鐘に着くまでは急な階段を百四十二段も上った。ここで思ったより時間がかかったので、建長寺までは走っていった。建長寺では一番楽しみにしていた舍利殿が工事中で見られなかった。でも、その分十分な時間をもって昼食にした。ずいぶん歩いたので、水筒の

- 8 -

水を一息で飲んでしまった。

建長寺から鶴岡八幡宮までは山越えだった。急な坂道を上っていると、今まで歩いてきた疲れがいつべんに出て足がまるで棒のようになって動かなくなった。なんとか八幡宮に着くとその広さに驚いた。海から続く参道も見えて本当に鎌倉の中心という感じがした。

鎌倉駅からは江の電に乗った。とてもこんでいて身動きひとつできなかった。やつと長谷駅で降り、また大仏のある高德寺に歩いた。大仏は、見学に行く前に高さや重さを調べていたけれど、想像していたよりもずっと大きく感じた。感動でしばらく前から動けなかった。二十円を払うと中に入れるというのでわくわくして入ったが、中は何にも無くておまけに暗くて暑くてすぐに出てしまった。また少し歩いて長谷寺にも行ったが、その観音様の優しい表情にも感動した。

江ノ島マリナランドではイルカのショーを見た。イルカがジャンプして輪くぐりしたり、鼻で私たちにボールを投げたりした。かわいらしくて手招きしたら私たちの前でジャンプをしてくれた。ただ一番前の席で見えていたのでイルカがジャンプした時の水がかかって、服がビショビショになってしまった。

ある立場(立場ⅰとする)からこの「社会科学見学」を切り取ると、「お菓子の交換」や「ゲーム」などの具体的事実をもとにした「社会科学見学は楽しかった」という「データ」が導かれることになる。そのような「データ」が与えられれば、「主張」は「また社会科学見学に行きたい」というものとなる。これと同様な「主張」は他の立場(立場ⅱとする)からも導かれる。具体的には「鎌倉の大仏」や「長谷観音」を具体的事実とした「社会科学見学は ア 」という「データ」などからである。しかし、まったく逆な「主張」が展開できる立場(立場ⅲとする)もある。ここからは「急な階段」や「山越え」という具体的事実が見えてくるとすれば、そこから「とても疲れた」という「データ」が導かれることになるからである。また、これも「 イ 」という「データ」からも導かれる。この「データ」となるには、「工事中」や「イルカショーで水がかかった」という具体的事実が見えてくる立場(立場Ⅳとする)をとればよいのである。

冒頭の引用のようなことは人間にとってよくあることである。しかし、上述のように社会における論証についての知識があれば「枠組みから外れたやつ」や「自分がわからないもの」に出会っても、少なくともと差別やいじめをしたり攻撃したりはしないはずである。人間は知識がないから「こわい」のであるから。

(作問者作成文章)

- 9 -

8

傍線部 a 「枠組みから外れたやつ」が「こわい」とあるが、なぜ、このような心情になるのか。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

1 「枠組みから外れたやつ」は、この先どこへ行くのか予想できないため、こちらもどこに行ったらよいかわからないため。

2 「枠組みから外れたやつ」とは、こちらのもつ「データ」も「理由づけ」も同じことを表すことであるから、そのあまりの偶然性に驚愕するため。

3 「枠組みから外れたやつ」とは、暴力的(言葉の暴力を含め)ということの言い換えであるから、こちらの身に危険を感じるため。

4 「枠組みから外れたやつ」とは、こちらのもつ「データ」は同じであるが「理由づけ」が異なることを表すことであるから、相手の行動が理解できないため。

5 「枠組みから外れたやつ」は、法や規則を守っていないことであるから、こちらの言っていることが通じないため。

9

傍線部 b 「『攻撃』したり」とあるが、この原因について本文中に二つ示している。これらを知らずに多数側に立って「攻撃」することを何というか。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

1 懲罰無礼を働く。

2 同調圧力をかける。

3 アカウンタビリティーを果たす。

4 インセンティブを与える。

5 虚心坦懐で臨む。

10

傍線部 c 「わかりやすいでために押し込んで、わかった気になったりしてしまふ」とあるが、それは具体的にどのような行動であるか。誤っているものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。誤っているものがない場合は 5 と解答せよ。

1 相手の行動を支える「データ」について、確かめもせずに自分なりの「データ」を想像して位置づけ、その行動を理解したつもりになること。

2 「社会科学見学」の作文で言えば、相手が「もう行きたくない」という主張を展開しているのであつたら、それは「きつと疲れたからなのだろうな」と勝手に考えてしまうこと。

3 相手の行動を支える「理由づけ」について、確かめもせずに自分なりの「理由づけ」を想像して位置づけ、その行動を理解したつもりになること。

4 「社会科学見学」の作文で言えば、相手が「勉強になった」という「データ」を話したならば、「勉強になる」ということは再び行きたいに違いない」という「理由づけ」を勝手に位置付けて、「また行きたいですね」と話を進めてしまうようなこと。

- 10 -

11

傍線部 d「要素間の当たり前の関係性について述べているだけ」とあるが、それはどのような意味か。誤っているものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。誤っているものがない場合は 5 と解答せよ。

1 たとえ「理由づけ」が省略されていても、それが社会的な常識であったなら、「データ」が示されたなら、社会の構成員は同じような「主張」を導き出すということ。

2 「二つの三角形は合同である」という「主張」を導き出すための前提は、問題文中にある「データ」と「理由づけ」以外には存在しないということ。

3 「A は B であり、B は C であるから、A は C である」という枠組みでは、たとえ C に D が含まれているとしても、A と D の関係性については何も言及できないということ。

4 「データ」や「理由づけ」に示された内容が虚偽であっても、論証の枠組みで語られた「主張」は、論理上は正しく導かれたことになってしまふということ。

12

傍線部 e「そうではない場合」とあるが、それは具体的にはどのような場合か。最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

1 「人間は必ず死ぬものである」という「理由づけ」に対して、「死なない人もいるのではないか」などと異議を唱えること。

2 「太陽は東からのぼる」という「理由づけ」を、決して省略することなく常に言語化して表現すること。

3 自身が経験から感じ取った「受験は運である」というものを「理由づけ」として、「あなたは運がいいから合格するよ」などと、当然のように語ること。

4 「楽しいことはもう一度体験したい」という「理由づけ」が常識であると考えられているが、「楽しいことは思い出としてしまつておくので体験しなくてもよい」という「理由づけ」も存在するということ。

5 「A は C である」ということのみが「理由づけ」となる定理ではなく、ほかの定理である例えは「A は D である」というものも存在する可能性があるということ。

13

14 空欄 ア 空欄 イ に入るものとして、それぞれ最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。なお、二つとも正答の場合のみ得点を与えるものとする

(アは 13 に、イは 14 に解答)。

1 ついてなかった 2 また行きたい

3 もう行きたくない

4 感動した 5 鶴岡八幡宮は鎌倉の中心だ

「大問Ⅲ」は著作権の関係で
ホームページには公開しておりません。

「大問Ⅲ」は著作権の関係で
ホームページには公開しておりません。

Ⅳ 次の文章を読み、設問に答えよ。

K いよいよ入試の時期ですね。A 先生はどのような学生が入学してくることを期待しますか。
A やはり、日本語をしっかり使いこなせる学生に入学してほしいですね。^a日本語を第一言語とする人は、日本語によつてものごとを考えているわけです。日本語がしっかり使いこなせないということは、しっかり考えられないということですから、大学においての専門教育にはついてくることが難しくなっています。

K 本当にそうですね。その日本語においては、正しさはもちろんですが、豊かさも求められますね。
A 豊かさに関しては、先人の知恵の結晶であること^bや故事成語、慣用句などを常識として知っていることも大切です。表現に深みや厚みができますから。

K すばらしい新入生がきてくれるとよいですね。期待しましょう。

23 会話文中の傍線部 a 「日本語を第一言語とする人は、日本語によつてものごとを考えているわけです」ということについての問題である。以下の①、②の文章を読んで、それぞれの問

いに解答せよ（①は 23 に、②は 24 に解答）。

① 小学校六年生四十人にアンケートをとった。その結果、スマホを持っている児童は二十四人、タブレットを持っている児童は十六人いた。以下のア～エの中で正しいものはいくつあるか。その数を 1～5 のうちより一つ選べ。

ア 「スマホとタブレットのどちらか一方のみを持っている人数」と「スマホとタブレットの両方を持っている人数」は同じである。

イ 「スマホとタブレットのどちらも持っていない児童」はいない。

ウ 「スマホとタブレットの両方を持っている児童」の人数は十六人以下である。

エ 「スマホとタブレットの両方を持っている児童」を除く人数は二十四人以上である。

1 一つ 2 二つ 3 三つ 4 四つ 5 すべて間違い

② 私にとつての「母の父と母」という言葉の意味は、「母の（父と母）」と解釈すれば、母方の祖父と祖母ということになり、「（母の父）と母」と解釈すれば、母方の祖父と母ということになる。同様に、「母と父の母と父」という言葉の意味も様々な様に解釈できる。様々な解釈し、そのすべてに含まれない人物は誰になるか。次の 1～7 のうちより一つ選べ。

1 母 2 父 3 母方の祖父 4 母方の祖母
5 父方の祖父 6 父方の祖母 7 含まれない人物はいない

25

会話文中の傍線部 b「ことわざや故事成語、慣用句」についての問題である。次の故事成語についての説明について正しいものを 1 と解答せよ。説明が正しくない場合は、2 と 3 のうち説明として正しいものを一つ選べ。

「刎頸の交わり」とは「互いのためなら首をはねられても悔いのないような生死を共にする間柄のこと」である。

- 2 「幼い頃から竹馬などに乗って一緒に遊んだ親しい間柄のこと」
- 3 「前世から敵と味方として分かれて戦っていたような恨み深い間柄のこと」

【国語】

I		
問 題	解 答	配 点
1	⑥	5 (完答)
2	②	
3	④	
4	③	5
5	④	5
6	①	5
7	④	5

II		
問 題	解 答	配 点
8	④	5
9	②	5
10	⑤	5
11	②	5
12	③	5
13	④	5 (完答)
14	①	

III		
問 題	解 答	配 点
著作権の関係で ホームページには 公開しておりません。		3
		4
		4
		3
		4
		4
		4

IV		
問 題	解 答	配 点
23	②	5
24	⑦	5
25	①	5



共 栄 大 学

入試広報課

〒344-0051 埼玉県春日部市内牧 4158

電 話 048-755-2490 (直通)